

2022年3月1日

東京都知事 小池百合子殿

## ファイザー執行役員の東京都教育委員会委員任命に反対する意見書

薬害オンブズパーソン会議

代表 鈴木利廣

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-14-4

AM ビル 4 階

TEL.03-3350-0607 FAX.03-5363-7080

yakugai@t3.rim.or.jp

<http://www.yakugai.gr.jp>

### 意見の趣旨

ファイザー社取締役執行役員を東京都教育委員会委員に任命することに反対する。

### 意見の理由

- 1 2022年2月25日、東京都議会は、ファイザー株式会社の取締役執行役員 炎症・免疫部門長である宮原京子氏を、東京都教育委員会委員に任命することに同意した<sup>1</sup>。

この人事については、ファイザー社が新型コロナウイルスワクチンを製造していることから、学校でのコロナ対策にも宮原氏の知見を生かしたい考えによるものであると報道されている<sup>2</sup>。

- 2 しかし、ワクチン製造メーカーの執行役員が教育委員会の委員に就任すれば、児童・生徒や教職員らに対する感染症の予防対策について、ワクチンを過大評価した意見を述べる可能性が否定できない。

とりわけファイザー社は、新型コロナウイルスワクチンを製造販売する企業であり、同社の執行役員である宮原氏は新型コロナウイルス感染症対策に関して利益相反を生じうる立場にある。5歳から11歳を対象とした新型コロナウイルスワクチンの接種をめぐって様々な議論がある中で、こうした利益相反性に留意しない人事が行われることは、あまりに無神経である。

しかも宮原氏は、平成22年6月にファイザー社に入社後、平成29年に執行役員に就任するまで、プライマリー・ケアマーケティング本部長、イノベーション医薬品マーケティング統括部長、インターナルメディスン営業・マーケティング本部長等を歴任し、一貫して営業部門の責任者としての立場にあった者であり<sup>3</sup>、より一層利益相反性を懸念させる事情が認められるといわざるを得ない。

このような著しい利益相反性の疑念を生じうる立場の者を、東京都の学校教育に関して強い影響力をもちうる教育委員会の委員に任命することは、東京都の教育行政の中立性及び公正性を著しく損なうものであり、明らかに不適切である。

- 3 以上から、当会議は、宮原氏を東京都教育委員会委員に任命することに反対する。

以上

---

<sup>1</sup> 東京都教育委員会委員の任命に係る議会の同意について 2022年2月25日付  
[https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press\\_release/2022/release20220225\\_03.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2022/release20220225_03.html)

<sup>2</sup> 読売新聞記事 2022年2月6日付  
<https://www.yomiuri.co.jp/national/20220205-OYT1T50114/>

<sup>3</sup> 前記注1略歴欄